

B 124 本州中部地方における維新後の衣生活の動向
和洋セ文文政改 廣司繪子

目的 西政文化流入以来、衣生活がどのように変貌をとけてきたか、各地域にみる変遷の違を求めたものである。今年度は中部地方をとりあげた。

方法 本学研究室で行ってきた衣生活調査、及び県市町村史・地方誌等に資料をもとのこれに考察を加えた。

結果 中部地方は旧幕時代、交通要路にそつた太平洋側と大々名産の多い日本海側、そしてその間にけわしい山岳地帯といった大きな差違をもつ性格をそなえていた。維新後、各地の有力地主層等から明治前半に早くも洋風文化に食指をのびしはじめたが、一般には日本海側に人口増減のほつしい動きを之引きふこした新しい産業の導入や交通の発達と共に生活に採用したのであつて、やつと麻・藤生活から木綿生活に抜けるといつた。隣接の関東地方より、むしろ東北地方に近い性格をもつところが多くあつたことを明らかにした。